

7. 利用の特性

(1) 大台ヶ原の利用動向

1) 大台ヶ原の利用者数の推移

大台ヶ原の利用者数については、平成 10（1998）年度～平成 23（2011）年度までは減少傾向で推移していたが、平成 24（2012）年度から微増に転じ、平成 27（2015）年度には 107,296 人となった。その後、令和元（2018）年度までは再び減少傾向となったが、新型コロナウイルス感染症による移動制限が行われた令和 2（2019）年度は増加し、以後概ね横ばい傾向となっている。

なお、全国の国立公園では、令和 2（2019）年に新型コロナウイルス感染症による移動制限の影響で大幅に利用者数が減少していたが、関西の都市部から日帰り圏内にある大台ヶ原では、近場への訪問に対する需要の高まりのため、その影響を受けなかった可能性が考えられる（図 2-7-1）。

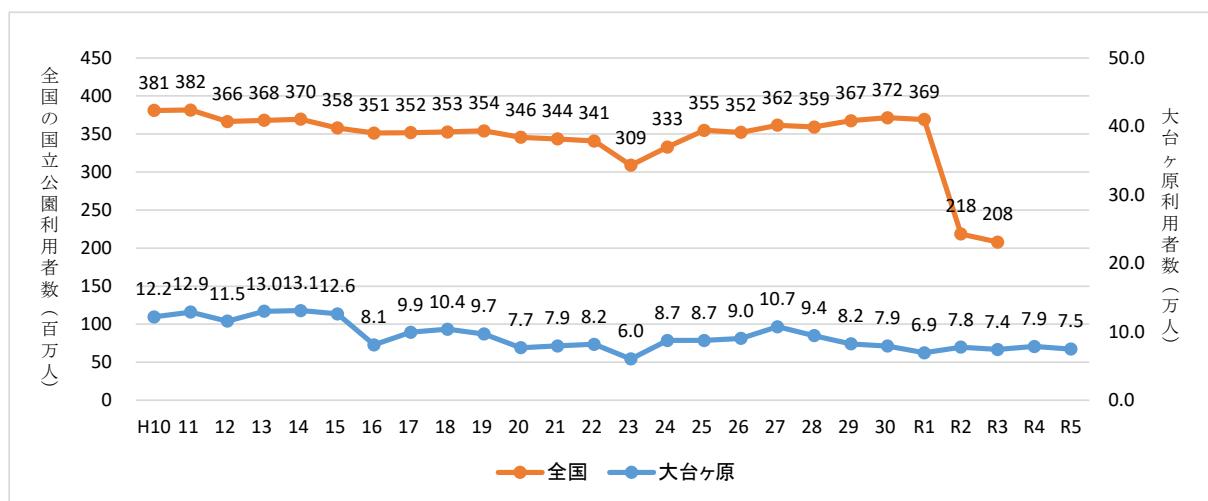


図 2-7-1 全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移

※大台ヶ原の利用者数は、正午時点の山上駐車場の駐車台数を基に、以下の推計式で推計したものである。

大台ヶ原の利用者数＝観光バス台数 × 22 人 + 乗用車台数 × 2.2 人 × 2回転十二輪車台数 × 1.1 人

2) 大台ヶ原の月別利用者数

大台ヶ原の月別利用者数は、新緑の時期である 5 月、夏休み期間中である 8 月、紅葉の時期である 10～11 月に多くなっている（図 2-7-2）。

なお、令和 2（2019）年度と令和 3（2020）年度は、緊急事態宣言や GO TO トラベルキャンペーンの影響により、月によって利用者数の傾向が異なっているが、令和 4（2021）年度以降は概ね新型コロナウイルス感染症の拡大前の状況に戻った

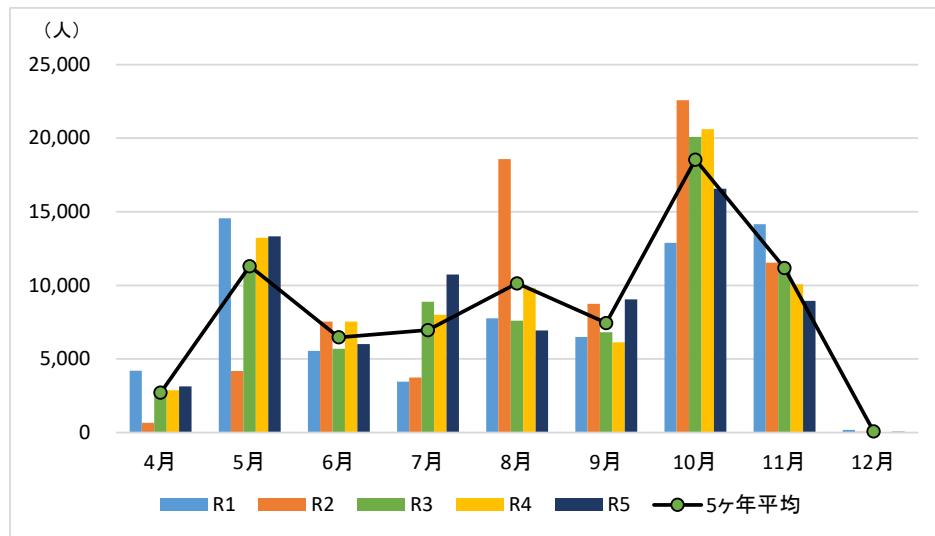


図 2-7-2 大台ヶ原の月別利用者数の推移

※令和 5 年度の大台ヶ原の開山期間は、2023 年 4 月 17 日～12 月 1 日まで

3) 大台ヶ原の平日・休日別利用者数割合

大台ヶ原の平日・休日別利用者数の割合は、休日の利用が多くおよそ 6 割を占めている（図 2-7-3）。

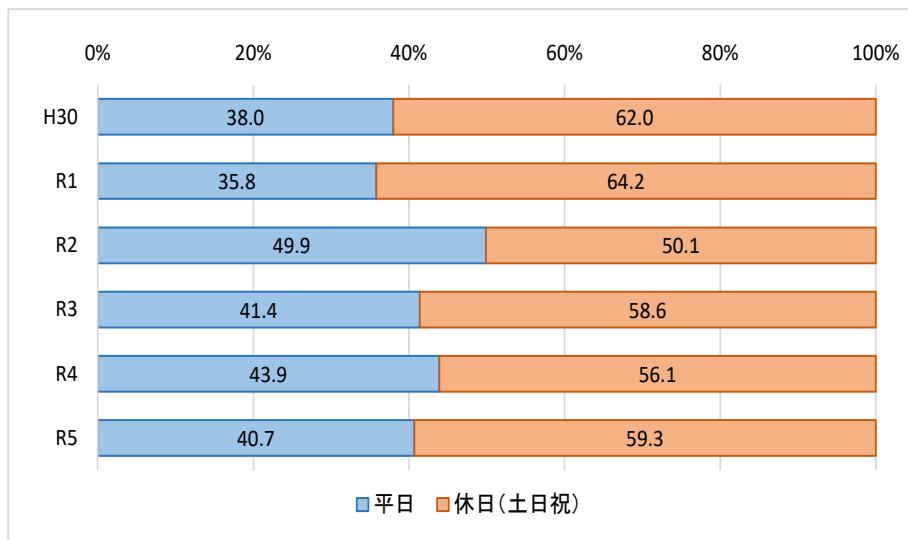


図 2-7-3 大台ヶ原の平日・休日別入山者数割合の推移

4) 山上駐車場の駐車台数の推移

山上駐車場の駐車台数は、平成 27（2015）年度に 25,000 台となったがそれ以外は、おおよそ 18,000 台前後で推移している。駐車している車種の内訳は、85%程度を自動車が占めており、二輪車は 10%程度、バスは 2%未満となっている（図 2-7-4）。

バスの駐車台数は、令和 2（2020）年度に新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したが、令和 4（2022）年度から徐々に増加しており、観光ツアーが戻りつつあると考えられる（図 2-7-5）。

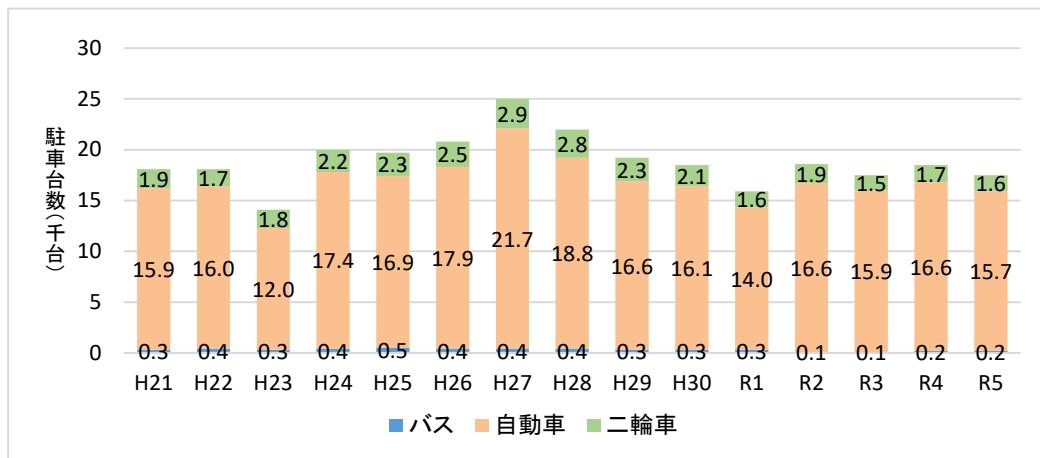


図 2-7-4 山上駐車場駐車台数の推移
※各年度の駐車台数は、各日の正午時点の山上駐車場の駐車台数の合計

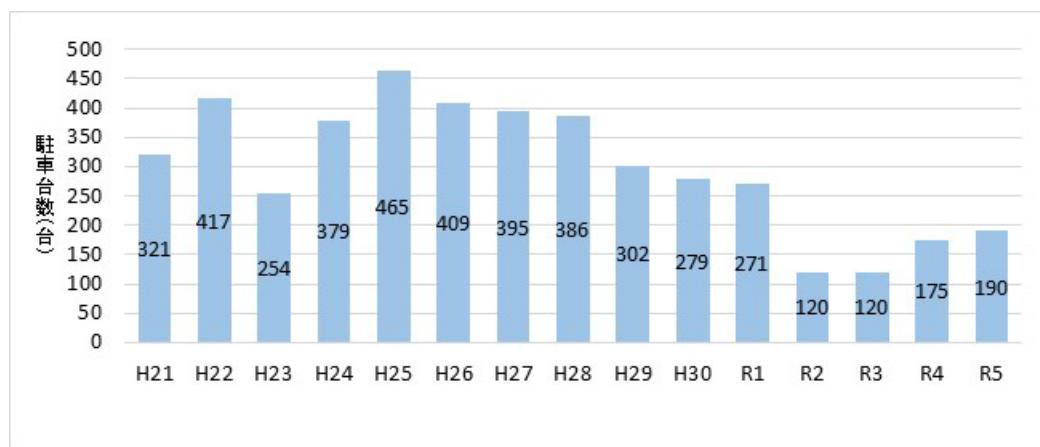


図 2-7-5 山上駐車場バス駐車台数の推移

5) 路肩駐車の発生状況

路肩駐車の発生日数は、平成 28（2016）年度から平成 29（2017）年度にかけて減少し、それ以降は横ばいとなっていて、令和 4（2022）年度は増加に転じたが、令和 5（2023）年度は大幅に減少した（図 2-7-6）。

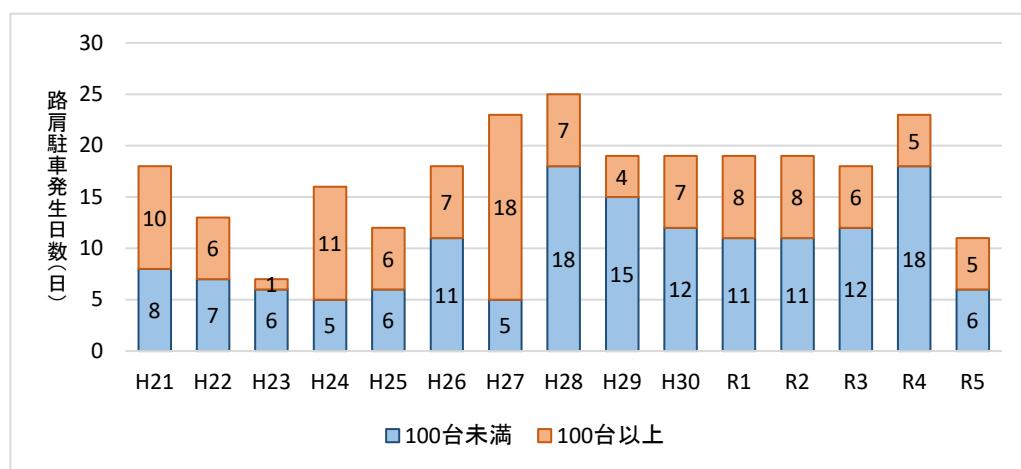


図 2-7-6 路肩駐車発生日数の推移

路肩駐車台数は、令和3（2021）年度から減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響により増加した令和2（2020）年度と比べ、令和5（2023）年度は半数以下となっていた（図2-7-7）。

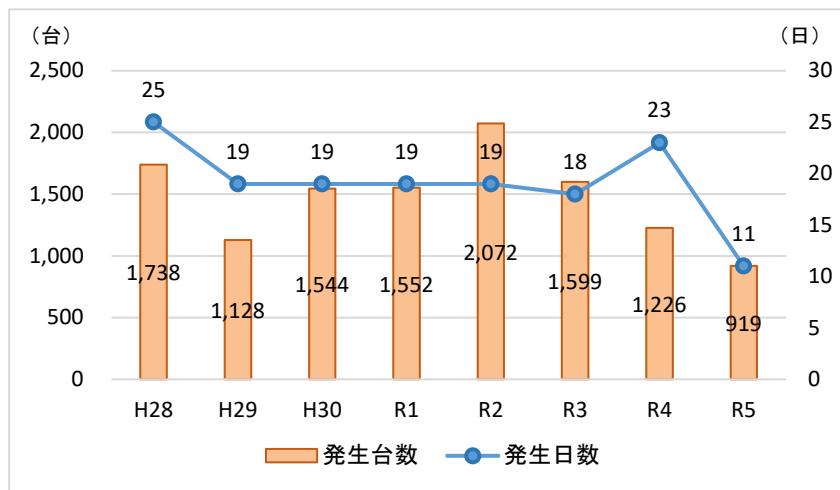


図 2-7-7 路肩駐車の発生日数と発生台数の推移

6) 公共交通の利用状況

公共交通として、大台ヶ原山上までバスが運行されている。平成24（2012）年度から令和元（2019）年度にかけては、平成27（2015）年度が9,500人と最も多くなっていたが、その後減少傾向となり、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2（2020）年度には、4,255人と激減した。その後利用人数は徐々に増加し、令和5（2023）年度は5,633人となった。なお、令和4（2022）年度からバスの発着地がこれまでの大和上市駅からイオンモール樫原に変更となり、近鉄・大和八木駅、近鉄・樫原神宮前駅を経由して大台ヶ原山上へ運行されている。

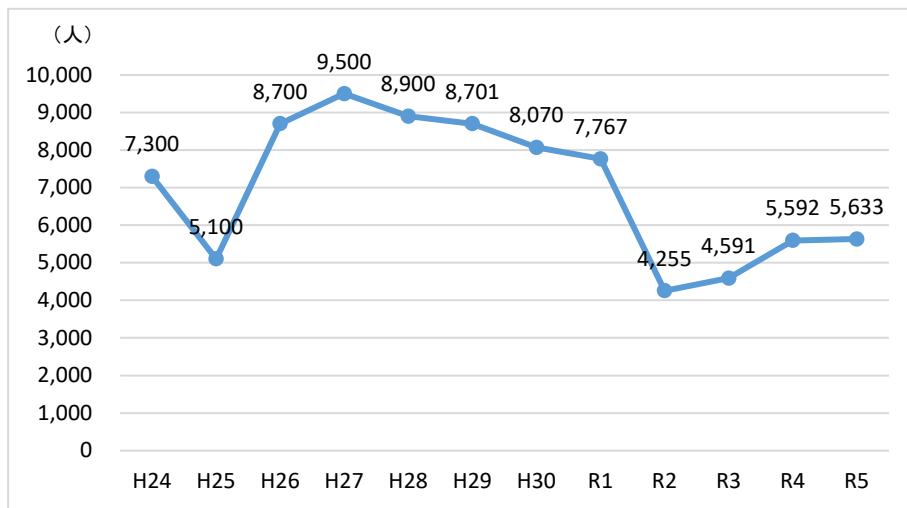


図 2-7-8 路線バスの乗車人数の推移

※奈良交通株式会社吉野営業所・葛城営業所提供的資料（乗車人数）を基に作成した。
なお、平成25（2013）年度は売上金額からの推計値である。

(2) 西大台利用調整地区の利用動向

1) 西大台利用調整地区の認定者数及び入山者数

平成 25（2013）年度～平成 29（2017）年度にかけては、西大台利用調整地区の認定者数は、平成 28 年度をピークとして、3,000 人を超えていたが、平成 30（2018）年度以降は 2,400～2,700 人程度で推移している（表 2-7-1）。また、認定者数に対する入山者数の割合は、85～90% 程度となっている（表 2-7-2）。

表 2-7-1 西大台利用調整地区の認定者数の推移

月	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4	60	109	74	125	193	164	195	0	66	127	90
5	636	756	934	696	714	580	532	61	358	462	447
6	251	309	236	309	273	203	242	213	177	206	291
7	262	270	289	402	277	190	187	244	333	307	338
8	370	367	320	417	328	273	212	470	227	285	231
9	294	262	395	280	246	212	207	341	208	140	315
10	915	871	870	975	886	807	770	927	738	702	653
11	366	286	377	337	384	324	437	469	339	238	266
合計	3,154	3,230	3,495	3,541	3,301	2,753	2,782	2,725	2,446	2,467	2,631

表 2-7-2 西大台利用調整地区の入山者数の推移

月	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4	58	96	72	120	182	157	181	0	65	109	88
5	591	699	851	639	687	533	500	60	323	414	411
6	230	278	216	288	261	169	227	206	167	204	235
7	250	230	230	363	268	158	161	210	322	286	321
8	340	300	303	400	310	227	180	450	178	258	170
9	199	234	368	216	223	169	172	307	187	115	297
10	714	711	834	903	632	771	620	875	706	649	618
11	315	237	343	314	358	305	412	442	328	230	225
合計	2,697	2,785	3,217	3,243	2,921	2,489	2,453	2,550	2,276	2,265	2,365
認定者数に対する割合 (%)	85.5	86.2	92.0	91.6	88.5	90.4	88.2	93.6	93.0	91.8	89.9

2) 西大台利用調整地区の平日・休日別入山者数割合

西大台の平日・休日別利用者数の割合は、休日の利用が多くおよそ 6 割を占めており、大台ヶ原全体に比べて、休日利用者の割合が高い傾向がある（図 2-7-9）。

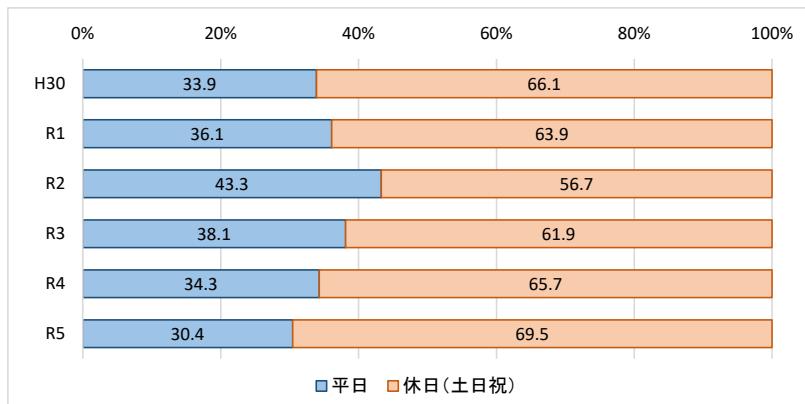


図 2-7-9 西大台利用調整地区の平日・休日別入山者数割合の推移